

52 シルヴィウス解剖学書の情報源

—ガレノスとの比較から—

澤 井 直

順天堂大学医学部解剖学第一講座

Sylvius の名で知られる Jacques Dubois (1478-1555)

ジャック・デュボワ (Jacques Dubois, 1478-1555) は十六世紀前半のパリ大学で活躍した医学者であり、古代ギリシアの医学に精通していたことで知られる。ガレノスやヒッポクラテスの医学書についてのラテン語による多くの解説書や注釈書をシルヴィウス (Sylvius) の名で出版した。解剖学者としても活躍し、ヴェサリウス (Andreas Vesalius, 1514-1564) への影響は著名である。

これまではヴェサリウスとの比較からシルヴィウスの解剖学は権威に盲従する旧来の解剖学として評価されてきた。これはヴェサリウスがガレノス解剖学の誤りを指摘した後、シルヴィウスが著作の中で、ガレノスの時代と当時の人体の間に齟齬が生じたためにガレノスの記述

と現代の人体から得られる所見が異なっているのだ、というガレノス擁護を展開したことが大きな要因となっていると思われる。ヴェサリウスの『人体構造論』を開けば、その図版・詳細な説明の両方から観察を重視する現代の解剖学に通じるものが感じられる。他方、シルヴィウスの解剖学書『ヒッポクラテスおよびガレノス生理学の解剖学的部分に対する梗概』(In Hippocratis et Galeni physiologiae partem anatomicam isagoge, 1555) は図版もなく、言葉による人体の各構造の説明も簡略であり、その表題も含めて、ガレノスの解剖学書をまとめたものにすぎないという印象を与える。

しかしシルヴィウスの解剖学書にはガレノス以上のものがあつた。

第一に、解剖学用語である。シルヴィウスは会話や記憶、思考を容易にするために、人体の各構造を表す多くの名前を作りだし、現在にも残っている。その際に各構造の特徴を端的に表す表現を用いていたので、名前と構造との対応付けが容易であつた。このような名前はガレノスやヴェサリウスにはほとんど見られなかつた。ガレ

ノスは骨には名前を与えているが、筋肉・神経・血管には名前を与えていない。ヴェサリウスは「肩を動かす第一の筋」というような序数を用いて筋肉や血管などを表したが、この序数による名称は各構造の特徴を表すものではないので、解剖によって実際に目にする情報と対応付けることが困難であった。

第二に、シルヴィウスはテキストの構造化を行っている。ガレノスの『解剖学指南』(De anatomiciis administrationibus)、『諸部分の有用性』(De usu partium)においては部位ごとに章を分け、各章ではその部分にある骨や筋肉、血管などの構造が記述される。他方、シルヴィウスは「骨の章」、「筋肉の章」というふうに系統的に章を分け、さらにその章の中で「眼を動かす筋」や「腕を動かす筋」という下位のグループに分けて樹形図を用いて各構造を記述している。

これまではヴェサリウスに対して行ったガレノス擁護の反論から、ガレノスの引き写しに過ぎないと見られていたシルヴィウス解剖学にはガレノスにはないものがあり、後の世代への影響もあったのである。

ではシルヴィウスの解剖学書に記されている人体構造の記述の内容はどうなのだろうか。ガレノスの単なる引き写しにすぎないのか、それとも新たな内容を含むのか。

本発表においては、シルヴィウスが参照できたガレノスの解剖学書に書かれた骨・筋肉の記述とシルヴィウスによる骨・筋肉の記述を比較し、シルヴィウス解剖学書の内容を評価する。